

# 時代の狭間－寺社の構えと旧二条城の濠－

2026.04.25 京都市文化財保護課 赤松佳奈

## 旧二条城とは

織田信長が15代将軍・足利義昭の御所として永禄11年(1568)に普請した城で、当時は「武家御城」「公方様ノ御城」「武家御所」などと呼ばれていた(「旧二条城」は現代の学術用語)。

現在の烏丸下立売付近にあり、周辺には今も「武衛陣町」の地名が残る(図1)。この地名は幕府の管領である斯波義将が勘解由小路にかまえた邸宅で、斯波氏の務めた「兵衛」督の唐名である「武衛」に由来する。また「武衛陣」は義昭の兄である13代将軍足利義輝が居所としていたという。

信長が義昭を伴って入京した永禄11年の京都は政治的にかなり不安定な状況であった。永禄8年(1565)、松永久秀と三好三人衆が二条御所を襲撃し13代将軍足利義輝を自害させており、彼らが擁立した足利義栄が永禄11年2月に摂津富田で宣下をうけ第14代将軍に就任したばかりの頃である。

15世紀後半～16世紀前半の京都は、応仁・文明の乱(応仁元年1467-文明9年1477)、明応の政変(明応2年1493)とその後の細川京兆家の家督争いや天文法華の乱(主に天文5年1536)、三好長慶の台頭などを経て室町幕府が瓦解し、洛中でも頻繁に武士の衝突がおこる荒れた時代で、上京・下京の町域には構えの堀が造られていた。そうした情勢の中で新しく奉じた将軍義昭の居城としてつくられた城が「旧二条城」である。

## 室町時代の堀

100年に及ぶ戦乱の時代であればかなり立派な堀や構えの遺構が多数見つかる想定されるが、京都市内の発掘調査で見つかった室町時代後期の堀はいずれも幅2～5m、深さ1～3m、形状は底が狭く開口部が広い逆三角形を呈しており、「旧二条城」跡や豊臣期の堀に比して小規模である。この規模の15・16世紀の堀は、本國寺跡(調査①)、妙覚寺城跡(図2調査②)、東三条殿跡(平安京左京三条三坊二町跡<以下平安京を省略>:図3調査③)のほか左京四条三坊十五町跡(調査④)や旧府警本部発掘調査(調査⑤)の東西方向の堀など特徴が近似した類例が複数あり、洛中における室町時代の堀の典型例であると考えられる。

## 旧二条城の新規性

地下鉄烏丸線の調査から「旧二条城」の堀は、堀幅10～25m、深さ3m、下部に石垣を持つ水濠であったことがわかる(図4～6)。石垣の下には沈下を防ぐための胴木があり、石垣裏込めも確認された。これは上記の堀に対して異質で、次の時代に使われる築城技術初端が随所に使用された実験的な城であったと言える。

表1 信長が築いた城

城名	築城年	現在地	特徴
小牧山城	永禄6年(1563)	愛知県小牧市内 平山城	緻密な石垣で囲まれた主郭がみつかる。
岐阜城	永禄10年(1567)	岐阜県岐阜市 山城	フロイス・山科言継が記録。豪壮な「宮殿」を築く。四階建ての御殿(天主)があったという。
旧二条城	永禄11年(1568)	京都府京都市 平城	<b>足利義昭のために建てた城。先駆的な平城。</b>
安土城	天正4年(1576)	滋賀県安土市 山城	天主・本丸を中心とした主郭部や総石垣の複雑な縄張り。金箔瓦、五層七重の天主。信長の築城技術の集大成といわれる。

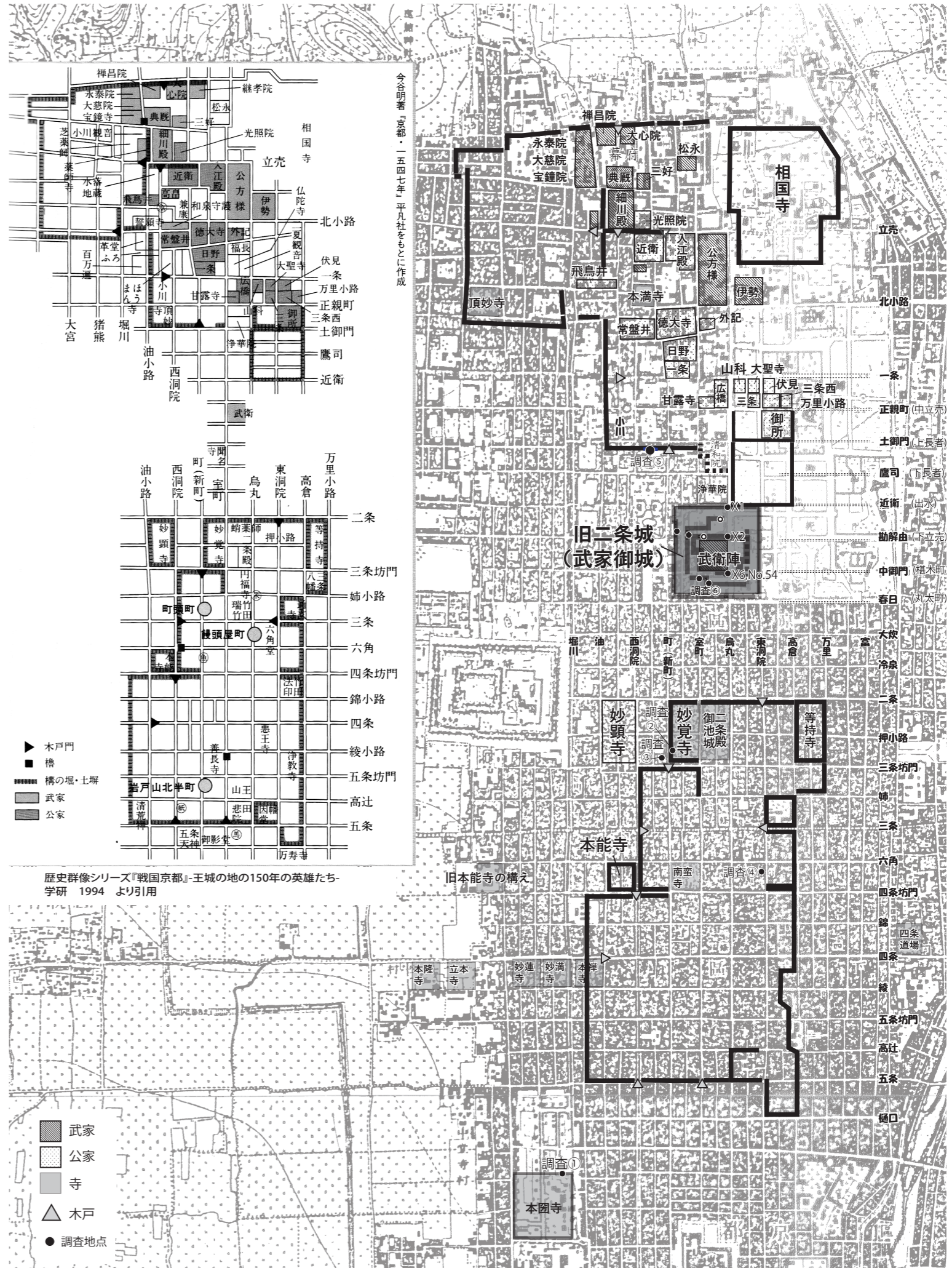


図1 上京下京の構えと室町時代の寺・武家屋敷・公家屋敷の配置 (大日本陸地測量部 明治25年「京都」を下に作成。)

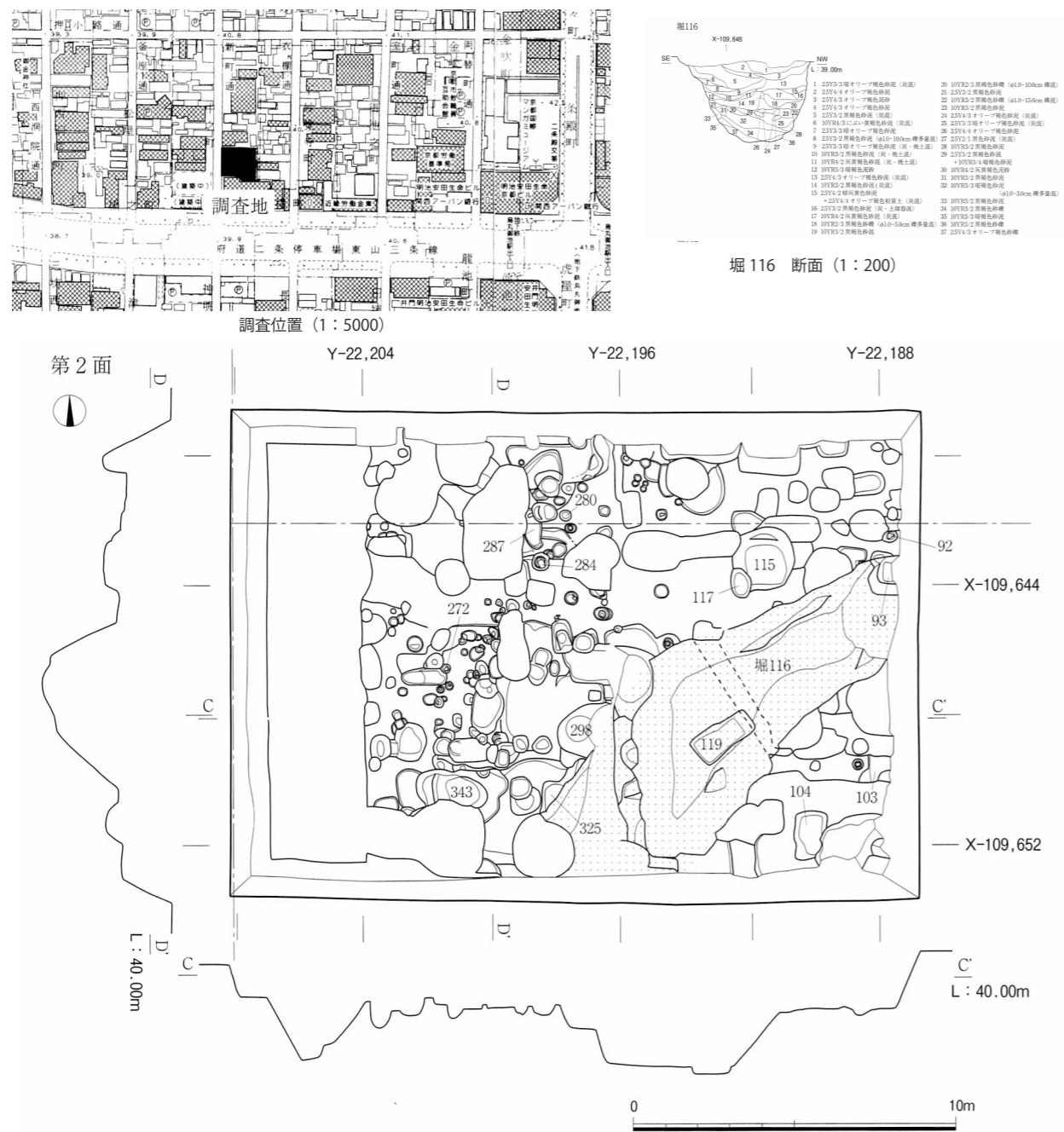


図2 調査②の堀 『妙覚寺城跡』—平安京左京三条三坊七町・烏丸御池遺跡— 古代文化調査会 2013 より引用

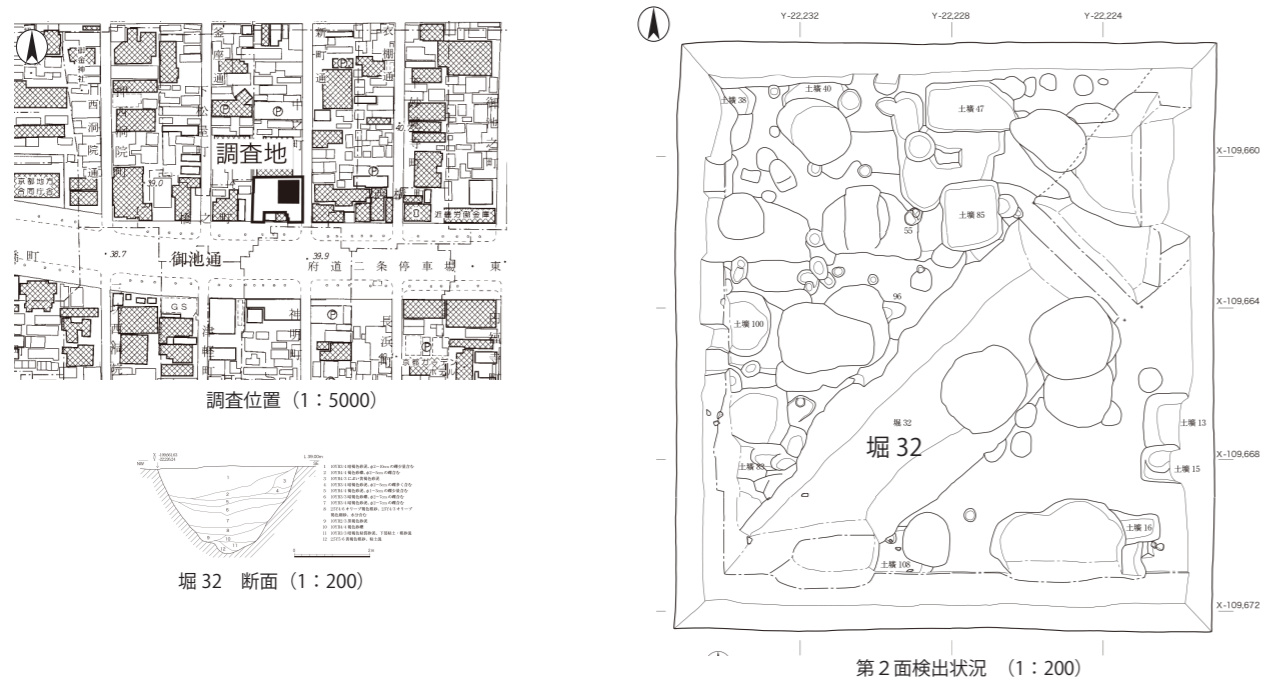


図3 調査③の堀 『平安京左京三条三坊二町・烏丸御池遺跡』—東三条殿— 古代文化調査会 2009 より引用

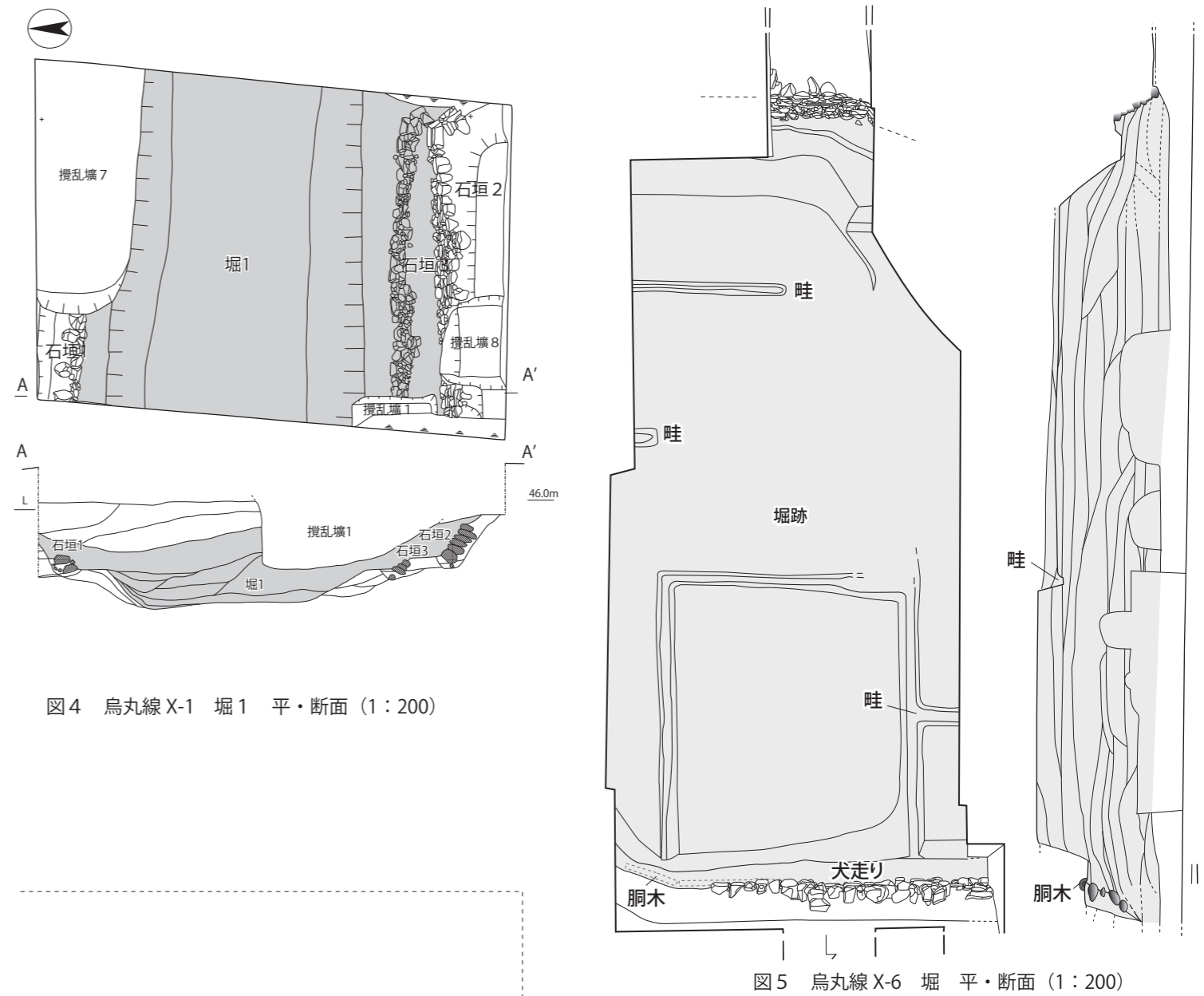


図4 烏丸線 X-1 堀 1 平・断面 (1:200)

図5 烏丸線 X-6 堀 平・断面 (1:200)

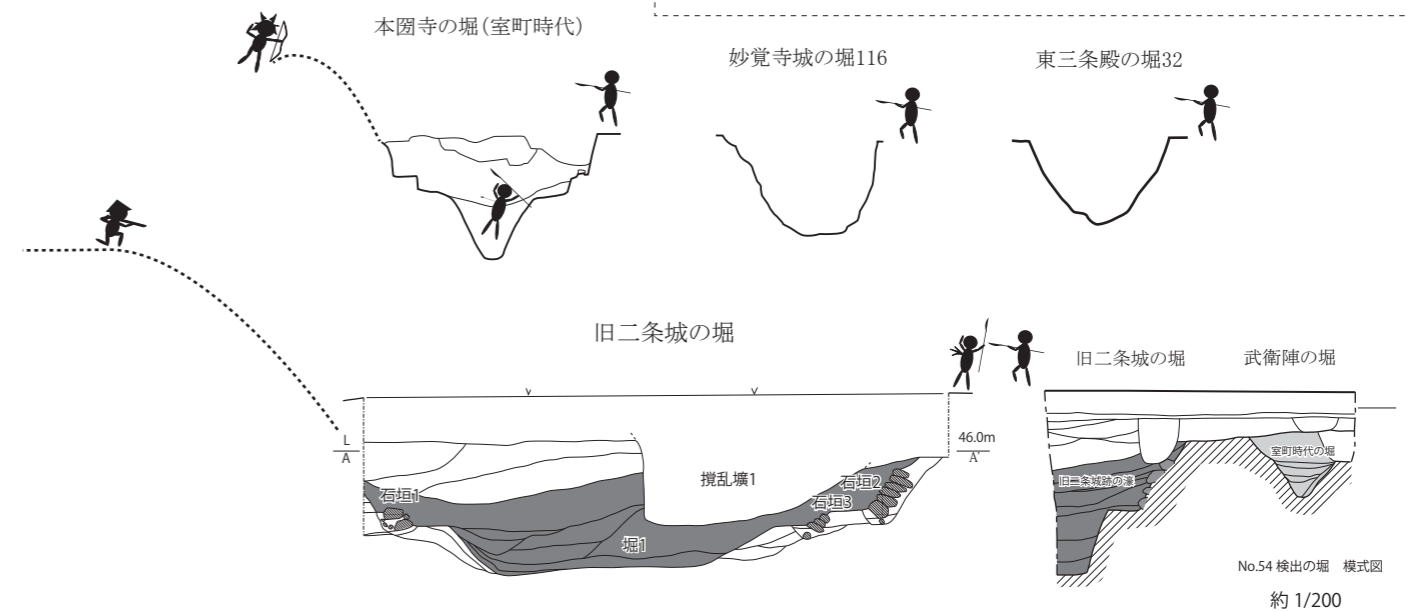


図6 室町時代の堀と旧二条城跡の濠の断面形状比較 模式図

引用参考文献  
 調査①:『平安京左京六条二坊五町・猪熊殿跡・本國寺跡』『昭和54年度京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所2012  
 調査②:『妙覚寺城跡』—平安京左京三条三坊七町・烏丸御池遺跡— 古代文化調査会2013  
 調査③:『平安京左京三条三坊二町・烏丸御池遺跡』—東三条殿— 古代文化調査会 2009  
 調査④:『平安京左京四条三坊十五町 烏丸御池遺跡』—御射山町の調査— 古代文化調査会 2015  
 調査⑤:『京都府遺跡調査報告集 第176冊』公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査センター 2018  
 調査⑥:『平安京左京二条三坊九町・旧二条城跡・烏丸丸太町遺跡』—大門町の調査— 古代文化調査会 2016  
 図4・5 烏丸線X-1・X-6『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅱ 1976年度』京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査、1980。